
俺の異世界生活

なつき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の異世界生活

【Nコード】

N2129P

【作者名】

なつき

【あらすじ】

最近「生きているのちょっと面倒だな」とか思い始めた、やることが睡眠、学校、バイト、趣味（ゲーム、パソコン）しかない、どこにでもいそうな？大学生の山瀬 壮一。日曜日にいつものようにバイトに向かう途中、光に飲み込まれる！気がつくと目の前には金髪、蒼眼のカッコかわいい女の子が！

お姫様じゃないようで実はお姫様なアリアと山瀬 壮一が奏でる異世界ファンタジー！

主人公最強になると思います。それと処女作ですので非常に！非常に！拙い文章です。どうぞよろしく願います。

プロローグ（前書き）

初めての作品です。

この小説を見て、この程度で投稿してるやつがいるなら俺でもいけんじゃない？やってみようかな！と思ってくだされば幸いです。

溢れる妄想を文字にするのがここまで難しいとはorz

ブローグ

ピピピ！ピピピ！

「ふわぁぁ」

「ごそごそと急かすように鳴る枕元に置いてあるはずの携帯電話を探し当てアラームを切る。」

「さてと、起きますかなつと！」

布団から出て洗面所に向かい、顔を洗って朝食の支度をすべく台所に向かう。

「パンはまだ残ってたかな？おっ！あるある！」

パンをトースターに放り込み、テレビの電源を入れてドカリとソファに座る。

テレビでは秋葉原を紹介する番組が流れていた。

「はぁ、アキバー一回行ってみてーな」とため息をつき、焼けあがったパンを齧る。

ボーっとテレビを見ているといつの間にやら先ほどまで秋葉原のB級グルメを紹介していたはずのレポーターが世間一般でオタクと言われるような格好をした人にインタビューをされていて、その様子をスタジオのゲストたちが苦笑いを浮かべながらながめていた。

「なんだこりゃ？こんなオタクいてたまるかよ！オタクで悪いかよ

「！！オタクなめんな！！」

テレビに向かって悪態をつき手にしたりモコンで画面を黒く染めた。

「あー気分悪い、バイト行くにはまだ早いな、ネット小説の続きでも読むか！」

そう言って部屋に戻りパソコンを立ち上げお目当ての小説を読み始める。

「やっぱこれ面白えな！結構長かったけど追いついちまったし、早く更新しないかなー」

先ほどの不機嫌はどこ吹く風といわんばかりに上機嫌になっていたが、ふと時計を見るとデジタル時計の右側の数字が予想していたよりも多いことに気がついた。

「やべっ！遅れちまう！」

バタバタと慌しく服を着替え自転車に乗り家を出る。

「ひーっひーっ！相変わらず…この坂は…何回上つても…きつい…
しかもこの時間は…逆光で…まぶしいし。チキショー！」

遅刻を回避するため必死に漕ぐが、急な坂の所為で思うようにスピードが乗らない。

「もうちよいで…上りきれるっ！しゃー！—（ピカッ！）うおっ！
まぶし！前見えねーよ！ちくしょうめ！」

視界のすべてが光で覆われ自分の体さえも見えなくなった。瞬間、
フワッと浮遊感に襲われる。

「あれ？地面は！？地面どこいった！？おわーー！！」

視界を無くし唯一感じることできた地面の感覚さえも失い青年は
光に飲み込まれていく。

光が収まるとそこには青年がいないこと意外、いつも道理の景色し
かなかった。

プロローグ（後書き）

たったこれだけの文章作るのに時間かかりすぎる。

慣れたら早くなるのかな？

第1話（前書き）

ひどい文章だ

第1話

??? side

今回は上手いきそうだ。じいは仕事で忙しいみたいだし、衛兵も撒いたはず、思う存分禁書庫を漁れる！…あれ？前に来たとき読んでたら急に化け物が出てきた怪しい本が無くなっている。あの本は面白かったんだがなあ。いろいろ試してみたい魔法とかも載ってたのに、きつとじいの仕業に違いない。しょうがない、適当に何冊か…

『戦争に勝つための100の方法』んゝいまいちだ、次！『働かずに暮らす生活を目指して』…今の状態ごそうだし…次！『魔法使いのための30分クッキング』ペラペラ…普通の料理本だ、魔法使い関係ないじゃないか。今までのやつ禁書庫に入れておく必要はなんじゃないか？次はと『魔力変換効率の最大化』むむっ！初めてまともそうなやつだ！1冊目はこれだな。次は…なんだこれは？知らない字？。少なくともこの大陸では使われてないぞ？

ペラ

ペラ「イタッ」ありゃゝ紙で指が切れてしまった。結構深く切れてしまったな。ズキズキするし血が滴ってきた。あつ！本に血が！汚してしまったな。まあいいか、どうせ私以外こんな本見ないだろうし。

バタンツ！！バラバラララ…

「何？さっきの本が（ピカッ！）きゃあっ！」

壮 side

ぎゃーす！落ちるー、死ぬー、やばいなんだ？どうなってんだ？いつまで落ちんの？死ぬの？誰か止めてー！

ドスンッ！「あが！いつでー！」いちちケツが。ともかくやつと終わりか。キヨロキヨロ

「知らない天井…なんだが、知らなくもない？」「おい」図書館か？「おい」いや待てよ図書室ってパターンも…」

「おい！！」

「ひゃい！？」「びくったー。誰だ？オレの心臓がヤバイことになってるよ。」

…わおっ！かわゆす！金髪のねーちゃんとか俺のツボをしつかりと抑えてやがるぜ、『それでも町は廻っている』の紺先輩みたいだな。

口調はちょっとキツイか？だがスタイルには目を見張るものがあるな。なんつーか黄金率？ぐれいとです！はなまるです！凝視しながら拝んでもいいですか？足下で仰向けになって見つめていいですか？

彼女が俺の落下を止めてくれたのかな？ほんと助かりました！

「聞こえているのか？わたしはアリアナクトという。恐らくわたしが先ほど見ていた本が原因だと思うが、なにかの拍子に貴方を召喚してしまつたようだ。もうしわけない。」

犯人おまえかー！美人だから許す！しかし召喚だつて？てことは、てことは！てことはー！？

「ここはモリオジナル国だ、あなたはどこの国に居たんだい？見たことのない格好だが？」

「異世界キターー！！」

「！？急にびつくりするじゃないか！しかし異世界だつて？ということとは別世界からここに来たということか？」

「ああ。俺の記憶にはモリオジナルなんて国は無いしな」ググっても何もヒットしないだろう。

「ググ何？」

「ん？気にしないでくれ。っとまだ自己紹介してなかったな。俺の名前はやま…じゃなくて壮一 山瀬だ。日本って国から来た。」

「ニホンか、やはり聞いたことが無いな。ではこちらも改めて名乗ろう。アリアナクト・プシエルツ・モリオジナルだ。」

そう言っただけで彼女が手を差し出してきたので自分も手を出し、握手を交わした。

俺はこの世界にも握手ってあんだな。などと考えていた。

第1話（後書き）

見切り発車はいかんぜよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2129p/>

俺の異世界生活

2011年10月6日10時30分発行